

第5学年1組 図画工作科学習指導案

指導者 田中 健治

1. 題材名 段ボールで、試して、つくって ～未来のつついタウン～

A表現（2）立体に表す

2. 題材設定の理由

○ 本学級の子どもは、1学期に行った図画工作科学習についての意識調査で「図画工作科が好きですか」という問いに対して21人中18人が「好き」と答えている。その理由として「つくることが好きだから」「自分の発想を絵や作品に表せるから」「難しかった物を工夫してつくと達成感があるから」等と回答しており、自分の思いを絵や立体で表現できる楽しさを挙げた子どもが多かった。また、「図画工作科の学習でやってみたいことはありますか」という質問に対しては、「段ボール遊びをやってみたい」「みんなで一つの作品をつくりたい」という思いが非常に多く挙がっていた。

1学期の題材「春を感じて」では、身近にあるものや生活の中で春を感じたものやことを見つけて絵に表す楽しさを感じ取ったり、鑑賞において、形や色に注目しながら自分と友達の作品のよさを味わったりしてきた。題材「糸のこドライブ」では、電動糸のこを使って切った板をつなげたり、組み合わせたりという活動を繰り返しながら、立体作品を作りあげていく経験をしてきた。しかし、学習の様子を見ると、発想や構想の段階で思うように活動が進まなかったり、表現意欲が最後まで持続しなかったり、友達と似たような作品になってしまったりする姿も見られ、自分の表現に十分満足できていない実態がある。そこで、このような実態から、材料と出会い、材料と触れ合う中で表したいイメージをふくらませたり、参考作品を鑑賞したりして、自分の表し方の工夫を見付け出し、試行錯誤しながら自分らしい表し方を追求できるようにしたいと考える。

○ 本題材は、「未来のつついタウンをつくろう」という設定で、段ボールの加工をいろいろと試しながら、段ボールの特徴を生かして、自由な発想で表したいものを表現する活動である。段ボールは、組み立てて箱にしたり、開いて板にしたりすることができるだけでなく、切ったり、丸めたり、水に浸したり、大きさや強度を変えたりすることが可能で、子どもが様々な表現を楽しむことができる材料である。試したり見付けたりしながら、形や色、材質感のよさを感じて、工夫して表現できるようにすることをねらいとしている。また、自分が表現したものと友達が表現したものを組み合わせて「未来のつついタウン」をつくることを通して、互いの表現のよさや、友達と協力して一つの作品をつくることのよさを実感することができるように考える。

3. 指導上の着眼

【着眼1】題材設定や展開の仕方の工夫

材料の特徴に関心を持ち、様々な方法を試みながら想像を広げ、意欲的に活動することができるように、「段ボール」を主材料とした立体物をつくり、「未来のつついタウン」をつくることを題材として設定する。導入＜であう＞段階では、未来に対する興味・関心を高めるように、2年後に開催される東京オリンピックの様子について話をしたり、「未来シティー」「偉大な発明家」の映像を見せたりする時間を設定する。＜あらかわす＞段階では、「試す」活動と「つくる」活動を一体的に扱い、「つくり、つくりかえ、つくる」ことを繰り返しながら、自分らしい表現を追求できるようにする。

また、友達の作品のよさや美しさを味わったり、自分の作品を振り返ったりして、よりよい表し方を見付け工夫することができるように、「みつける・あらわす」段階では、一単位時間の終わりにミニ鑑賞タイムを設ける。

【着眼2】造形的な見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

子どもが自分なりの造形的な見方・考え方を働かせて活動することができるように、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から以下のように学習活動を工夫する。

○ 自分のイメージを広げながら、表現したいものを具体化していけるように、「未来」というキーワードから連想することを、ウェビングマップを活用して各自が言葉で書き留めておき、さらに「未来のつついタウン」にあったら楽しいと思うことを引き出しながら広げて共有化し、自分の思いに合ったものを選ぶようにする。 <「対話的な学び」の視点>

○ 子どもがより自分の思いに近づけていくために、段ボールの加工の仕方や組合せ方、接着の仕方などはどうしたらよいかを考えることができるように、導入時に段ボールの特徴を生かした教師の参考作品を提示し、対話しながら一緒に考えるようにする。

<「主体的な学び」「対話的な学び」の視点>

○ 段ボールの見た目や感触から特徴をつかみ、いろいろな組み合わせを試して、自分の表現の見通しをもつことができるように、厚さの違う段ボールや、片面、両面、複両面等の種類の違う段ボールを用意し、材料に十分触れさせるようにする。 <「主体的な学び」「深い学び」の視点>

○ 互いの活動を見て、考えたことを伝えたり、思ったことを話したりすることができるように、生活班グループで学習を行うようにする。また、子ども達同士が自然に行き来し、材料を選びながら交流ができるように、材料スペースを中央に設置しておく。

<「主体的な学び」「対話的な学び」の視点>

○ 友達の作品のよさや美しさを味わったり、自分の作品を振り返ったりして、よりよい表し方を見付け工夫することができるように、「みつける・あらわす」段階では、一単位時間の終わりの振り返りの時間にミニ鑑賞タイムを設ける。鑑賞の場面では、変容が分かるように、前時の作品（写真）を掲示しておき、本時と比較させながら、「材料の組合せ方や工夫」にポイントを置いて、作品に対する自分の思いを交流できるようにする。 <「対話的な学び」「深い学び」の視点>

【着眼3】学習評価の工夫

「振り返りワークシート」をもとに、子どもが毎時間ごとに振り返りを行い、各学習のめあてが達成できたかを自己評価する機会をもつ。教師は、その記述を、次時の指導に役立てるようにする。

4. 特別な教育的支援を要する子どもに対する指導上の工夫・手だて

困難さ	手だて	番号
・見通しがもてず、不安になる。	学習の見通しがもてるように、学習の流れを視覚提示しておく。	①
・手先が不器用 ・意欲が続かない	座席は前列にし、教師がつまづきに対する対応をできるだけ早く行えるようにする。	②

5. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 未来のまちの様子に関心を持ち、これからの作品づくりに生かそうとする。 ○ 材料を試して、その可能性に関心を持ち、表すことを楽しもうとする。
発想や構想の能力	○ 材料の加工を色々と試すことから、材料としての可能性を見付け、表したいことを発想することができる。
創造的な技能	○ 材料のよさを生かして、美しさや面白さなどを考えながら、つくり方を工夫することができる。
鑑賞の能力	○ 自分や友達の作品を見て、互いの表し方のよさや面白さ、美しさを味わうことができる。

6. 指導計画と評価計画（総時数7時間）

	主な学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
であう	1. 「未来のつついタウン」について話し合う。②	○ 「未来のつついタウン」をキーワードに、ウェビングマップや鑑賞ノートを活用してイメージを広げるようにする。 ○ 「未来のつついタウン」にあったら楽しいと思うことを引き出しながらさらに広げ、みんなで共有化し、自分の思いに合ったものを選ぶようにする。	【関】「未来のつついタウン」の様子に関心を持ち、これからの作品づくりに生かそうとする。 (発言・ワークシート)
みつける・あらかわす	2. いろいろと試しながら、表したいことを見付けて表す。④ (1) だんボールの加工を試しながら表したいことを見付け、工夫して表す。③ ＜本時＞ 2/3 (2) 色を工夫して表す。①	○ 段ボールの加工の際、子ども達から出てこない技法に関しては、教師の方から教えるようにする。 ○ 自分で色々と試しながら表したいことを考えられるようにする。その際、友達と考えを交流したり、つくりたいもののイメージを膨らませたりしながらつくり方の工夫を深めさせるようにする。 ○ 色を塗る際には、自分の一番伝えたい箇所だけに色を塗るように声かけをする。	【関】材料を試して、その可能性に関心を持ち、表すことを楽しもうとする。 (発言・活動) 【発】段ボールの加工を試すことから材料の可能性を見付けて、表したいことを思い付いたり、つくりながら表したい形を見付けたりしている。 (作品・発言・活動) 【創】段ボールのよさを生かして、形や色を組み合わせて表すことを工夫している。 (ワークシート、発言、行動観察)

あ じ わ う	<p>3. 場所を選んで作品を飾り、鑑賞会をする。</p> <p>①</p>	<p>○ 材料のよさを生かしているところや、形や色の面白さなどを評価できるように鑑賞カードを用意し、お互いのよさを見付けることができるようにする。</p> <p>○ 多目的教室や筒井市民センター文化祭に展示し、「未来のつついタウン」の面白さを感じることができるようにする。</p>	<p>【鑑】 自分や友達の表し方のよさや面白さ、美しさを味わっている。 (ワークシート、発言、行動観察)</p>
------------------	--	--	---

7. 本時の学習 平成30年9月28日(金) 第5校時 体育館

(1) 主眼

前時までに表したものを修正したり、新たに付け加えたりする活動を通して、材料を効果的に使って自分のイメージに合ったものを立体的に表現することができるようにする。

(2) 準備

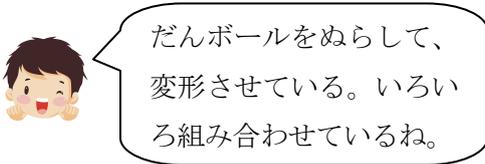
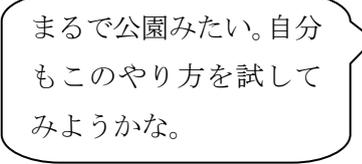
① 教師 段ボール・段ボールカッター・はさみ・両面テープ・木工用ボンド・グルーガン
新聞紙・バケツ

② 子ども はさみ・ボンド 振り返りワークシート

(3) 本時でめざす子ども像

段ボールをいろいろ試して、つくったり、つくりかえたり、友達と協力したりして、「未来のつついタウン」の立体表現を追求する子ども。

(4) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準(評価方法) ★ 特別な教育的支援を要する子どもへの特に困難とされる場面での支援のポイント
<p>1. 前時に表したものを見合い、それぞれのよさをとらえ、本時のめあてを確かめる。</p> <div data-bbox="156 1489 641 1653">  <p>だんボールをぬらして、変形させている。いろいろ組み合わせているね。</p> </div> <div data-bbox="156 1675 518 1839">  <p>まるで公園みたい。自分もこのやり方を試してみようかな。</p> </div> <div data-bbox="231 1854 1401 1919" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて だんボールの特ちょうを生かして、「未来のつついタウン」の〇〇をつくろう。</p> </div>	<p>○ 段ボールの材料としての可能性を試したり、作品をつくったりしたことを想起させる。</p> <p>○ 自分の表したいものの可能性や方向性を見出すことができるように、段ボールの特徴を生かした作品を提示し、表し方の工夫をみんなで話し合う。</p> <p>○ 製作活動の時間を確保するため、導入段階はできるだけ短時間で言う。</p> <p>★手立て① 学習の見通しをもち、心理的な不安を和らげられるように、本時のスケジュールを視覚的に示すようにする。</p>
<p>2. だんボールをいろいろ試しながら、工夫して表す。</p>	<p>○ 子どもが様々な組み合わせを試みようとするように、片面段ボール、両面段ボール、複両面段ボールを数多く用意する。</p>


 もう少しだんボールを
変形させてみよう。


 階段をつくるためには
どうしたらいいかなあ。


 だんボールを切って
交互に折り目をつけ
ていけばどうかな。


 うまく接着できない
なあ。いい方法はない
かな。


 この形はバランスが悪
いなあ。もう一度作り
変えてみようかな。


 その組み合わせいい
ね！私もやってみよ
う。教えて。


 だいふ、〇〇に見えて
きたね。

3. 表した作品（途中）をもとにミニ鑑賞タイムを行い、学習の振り返りをする。

- 活動をする上では、友達と話し合ったり、協力したりしてよいことを伝える。
- 具体的な接着方法については、いくつか提示して、自分の表現方法に合わせて選択させる。
 - ・ 主な接着方法・・・木工用ボンド
 - ・ 丈夫に接着させたい時には、段ボールの部分少し長めにしてのりしろをつくり木工用ボンドで貼り合わせる。
 - ・ 表面を飾るような軽いもの場合には、紙用の両面テープを使用させる。
 - ・ 早く接着させたい場合には、グルーガンを使って接着させる。
- 【発】 段ボールの加工を試すことから材料の可能性を見付けて、表したいことを思い付いたり、作りながら表したい形を見付けたりしている。（ワークシート、発言、行動観察）
- ★手立て② 個別の対話や教師と共同活動をしたり、教師の提示による選択の機会をもったりして、本人が自信をもって表現活動をできるようにする。
- 材料の特徴をよく生かし、自分が思いついたことを表現できている子どもには、思いをうまく表現できたことへの成就感を味わうことができるように、子どもの思いと表現方法をつないで賞賛する。
- 【創】 段ボールのよさを生かして、形や色を組み合わせることを工夫している。（ワークシート、発言、行動観察）
- 本時の活動に対する成就感や、次時への活動の意欲や見通しができるように、友達の作品のよさや、工夫している点について交流する場をもつ。
- 振り返りワークシートに学習のめあてが達成できたかを自己評価させる。

場の設定

体育館 前

前時の児童の作品 (写真)

ホワイトボード

学習の流れ

グルーガン
使用コーナー

参考作品

カッターコーナー

3班

1班

材料コーナー

4班

2班

5班